

中央アフリカ共和国への支援を訴えるステイ  
ーブン・アンダーソン WFP 日本事務所代表  
(中央)ら—千代田区の日本記者クラブで

# 中央アフリカ支援を

## 国連3機関が合同で訴え

### 内乱状態、国内外に難民



武装勢力同士の間から宗教対立に発展し、内乱状態となっているアフリカ中部・中央アフリカ共和国について、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と国連世界食糧計画（WFP）、国連児童基金（ユニセフ）の3団体が日本記者クラブで記者会見した。3団体は日本で合同会見するのは異例といい、

「国際社会の関心が高まらない中、大量の避難民が出ており、食料や医療が行き渡っていない」と資金などの支援を呼びかけた。中央アフリカでは昨年3月、イスラム教徒主体の反政府武装組織が首都バンギを制圧。ボジゼ大統領は国外に脱出したが、その後、政権を支えていたキリスト教徒側が抗戦して全土に衝突が広がり、民間人が巻き込まれる宗教対立となった。UNHCRによると、人口約450万人のうち、国内避難民は約63万人。また約32万人がカメルーンなどの隣国に逃れているという。4日にあった合同会見で、UNHCRのマイケル・リンデンバウアー駐日代表は「暴力の輪が広がり、避難民も増える一方。筆舌に尽くしがたい悲惨な状況だ」と述べた。WFPのステイブン・アンダーソン日本事務所代表は「昨年の調査では、国民の90%が1日1食で、調査した世帯の6割は食料の備蓄がなかった。（移動が制限される）雨期が間もなく本格化するため、支援は時間との戦いだ」と説明した。また、ユニセフの平林国彦・東京事務所代表は「5歳未満の幼児死亡率が高い国だが、子供の栄養状態がさらに悪化している。少なくとも6000人の子供が兵士などとして徴用されている」と訴えた。

【三木幸治】 放射能って何？ 理解して

# 東京

TOKYO  
tokyo@mainichi.co.jp

とうきょう支局

〒100-8051  
千代田区一ツ橋  
1の1の1  
☎03・3213・9701  
FAX03・3212・5186

購読・配達は

フリーダイヤル  
0120・468・012  
(終日)

広告・折込は

毎日広告社  
☎03・3213・3721  
毎日折込  
☎03・3208・8611

天気

☁ ☀ ☂  
き

都道 6 立川 会社 女性